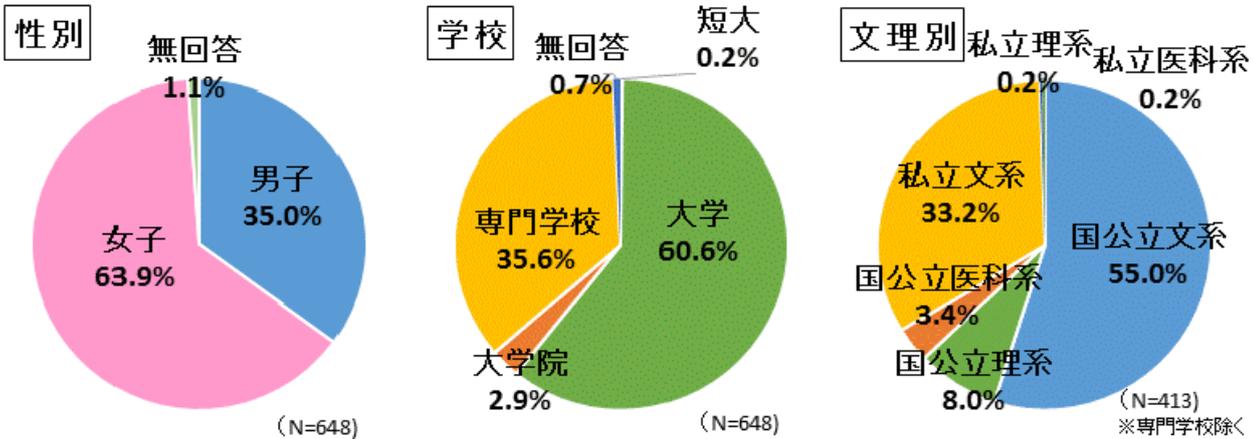


大学生等の意識と生活アンケート調査結果

2018.2.9 ひめぎん情報センター

【調査対象】 愛媛県内の短大・大学・大学院・専門学校に通う学生
 【調査時期】 2017年12月 【有効回答率】 71.1% (648人/911人)
 ・・・・【回答者の属性】・・・ <平均年齢> 19.6歳



	1年生	2年生	3年生	4年生	無回答	合計
短大	1	0	0	0	0	1
大学	259	44	62	26	2	393
大学院	3	5	6	3	2	19
専門学校	130	91	9	0	1	231
無回答	—	—	—	—	4	4
合計	393	140	77	29	9	648

※2016年の結果については、学生の親による回答、2017年は学生自身による回答。
 回答結果の「大学生」は短大生、大学院生を含む。

【回答結果】

1. 進学理由 (複数回答)

	2016年 (親の回答)	2017年 (学生の回答)				
		全体	大学生	専門学校生	男性	女性
専門知識・技術を身につけるため	33.6%	51.2%	40.4%	71.4%	48.9%	52.9%
希望の職業に就くため	42.9%	42.4%	41.9%	44.2%	33.0%	48.1%
資格・免許取得のため	24.3%	42.3%	30.0%	64.9%	32.2%	48.3%
教養を身に付けるため	51.7%	36.6%	51.8%	9.5%	40.1%	35.0%
学歴社会だから	17.4%	25.2%	38.0%	2.2%	30.4%	22.5%
人間関係を広げるため	29.0%	19.8%	27.1%	6.9%	21.2%	19.3%

学生の回答全体では「専門知識・技術を身に付けるため」が最も多く約5割、「希望の職業に就くため」、「資格・免許取得のため」がそれぞれ約4割を占めており、将来性を見据えて進学している人が多い。

2. 進学先を決定する際に重視したこと (複数回答)

	2016年 (親の回答)	2017年 (学生の回答)		
		全体	大学生	専門学校生
本人の学力	75.7%	43.8%	63.4%	9.5%
学校の授業内容	24.7%	42.0%	41.4%	43.3%
経済的事情	28.6%	29.5%	40.2%	10.8%
所在地	23.2%	28.7%	32.2%	22.9%
親の希望	6.6%	12.0%	15.3%	6.1%
就職時の有利さ	14.3%	11.4%	9.7%	14.7%
学校の校風・知名度	15.4%	8.3%	10.4%	4.8%

学生の回答全体では「本人の学力」、「学校の授業内容」で進学先を決定している人が多く4割以上。「大学生」の回答と2016年の親の回答を比較すると、大学生は「経済的事情」40.2%や「親の希望」15.3%を重視している人も多く、親が思っている以上に学生は親のことを配慮していることがうかがえる。

3. 教育費

①受験時にかかった総費用（受験料・宿泊代・交通費等）

	2016年 (親の回答)	2017年(学生の回答)		
		全体	大学生	専門学校生
平均総費用	18.6万円	21.0万円	21.4万円	19.3万円
平均受験校数	2.3校	2.1校	2.1校	1.4校

②年間の学費（授業料・教材費等）

	2016年(親の回答)	2017年(学生の回答)
国公立	71.6万円	67.0万円
私立文系	93.3万円	105.0万円
専門学校	120.0万円	124.8万円

4. 学校生活にかかる費用

①【自宅生】1ヶ月の小遣い

	2016年(親の回答)	2017年(学生の回答)
1か月の小遣い	1.8万円	2.4万円

②【自宅外生】毎月の仕送りと家賃

	2016年(親の回答)	2017年(学生の回答)
仕送り	8.2万円	6.1万円
うち家賃	4.2万円	4.1万円

③平均総費用額（学費＋生活費）

	2016年(親の回答)		2017年(学生の回答)	
	自宅生	自宅外生	自宅生	自宅外生
全体	136.5万円	192.9万円	143.6万円	145.3万円
国公立	122.3万円	175.0万円	109.4万円	131.4万円
私立文系	140.8万円	183.8万円	153.5万円	156.5万円
専門学校	144.0万円	270.0万円	166.6万円	170.3万円

5. 就職先として希望するところ

	2016年 (親の回答)	2017年(学生の回答)				
		全体	大学生	専門学校生	男性	女性
本人にまかせる	53.7%	—	—	—	—	—
県内の企業・団体等	24.7%	38.4%	29.1%	55.8%	34.4%	41.1%
公務員	16.2%	19.9%	31.0%	0.4%	20.7%	19.8%
県外の企業・団体等	3.9%	31.8%	31.2%	32.9%	35.2%	30.0%
家業を継がせる	0.4%	0.9%	0.7%	1.3%	2.2%	0.2%

学生の回答は全体で「県内の企業・団体等」38.4%が最も多い。

「大学生」は「県外の企業・団体等」、「公務員」、「県内の企業・団体等」にそれぞれ約3割ずつに分かれており、「専門学校生」は「県内の企業・団体等」が最も多く半数以上を占めている。

2016年の親の回答では「本人にまかせる」が半数以上を占めており最も多い。本人の意思を尊重している親が多いが、「県内の企業・団体等」を希望している親も多く、その理由としては「地元において欲しい」、「親元だと安心」、などの声が挙がっていた。親心が垣間見える結果となっている。

6. 卒業するまで身につけておきたいもの（複数回答）

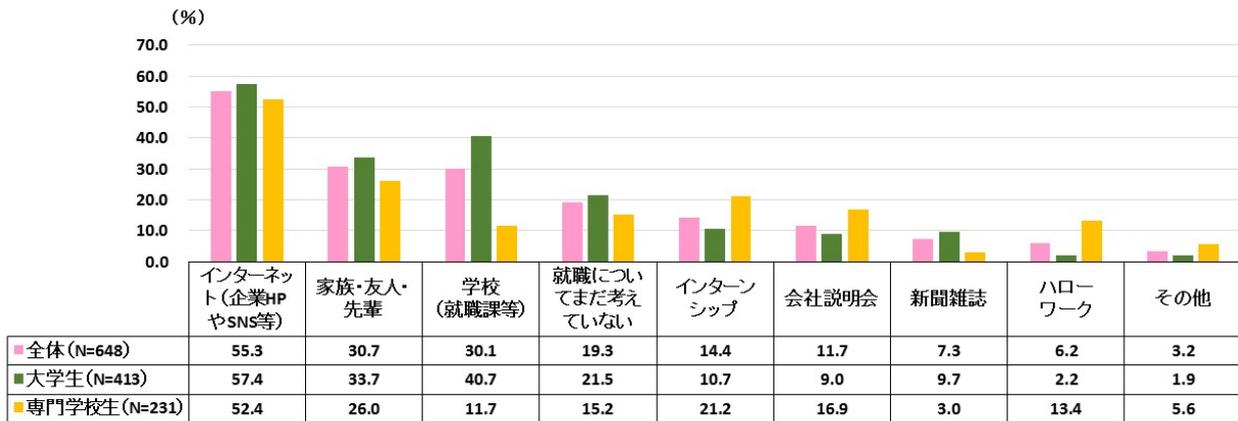
	2016年 (親の回答)	2017年(学生の回答)				
		全体	大学生	専門学校生	男性	女性
礼儀作法	49.8%	62.5%	62.2%	63.6%	60.4%	64.5%
社交性	72.2%	61.6%	66.8%	52.8%	63.4%	61.4%
語学力	23.2%	42.0%	48.9%	30.3%	37.4%	45.2%
学校の専門知識	56.0%	40.1%	51.1%	21.2%	38.8%	41.1%
資格	—	37.2%	34.9%	42.0%	30.8%	41.3%

学生全体の回答では「礼儀作法」が最も多く、次いで「社交性」、「語学力」。

親（2016年回答）としては、「社交性」を身に付けて欲しいと考えている人が多く7割以上を占めている。

仕事においてもコミュニケーション能力が必要となってくるため、人間力を高めて欲しいと考えている親が多い。

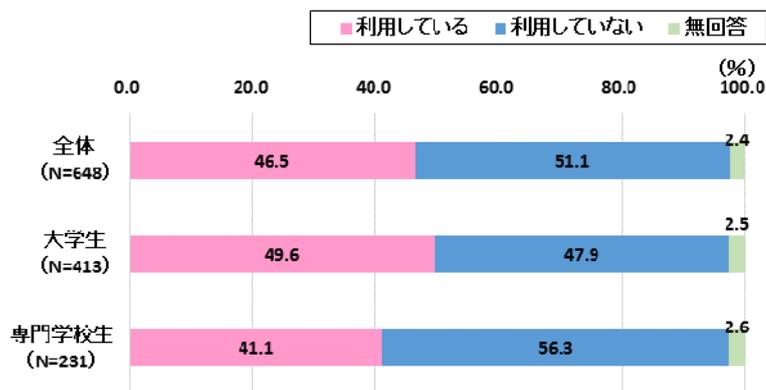
7. 就職先の情報の集め方（複数回答）



就職先の情報を集める際には、「インターネット（企業のHPやSNS等）」からが最も多く、全体では55.3%。

8. 奨学金について

①奨学金利用の有無

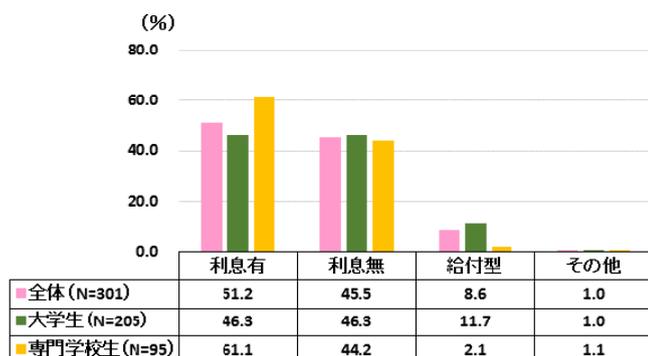


①奨学金を「利用している」人は全体で46.5%を占めている。

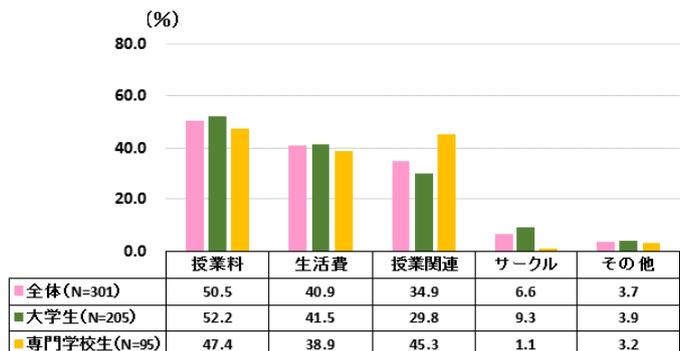
②奨学金を利用している人のうち「利息有」の奨学金を利用している人が多く全体で半数以上。

③奨学金の使い道としては、全体で「授業料」が最も多く、半数以上を占めており、次いで「生活費」、「授業関連」と続いている。「その他」には「親が管理」などが挙がっていた。

②(利用している人のみ) 奨学金の種類（複数回答）

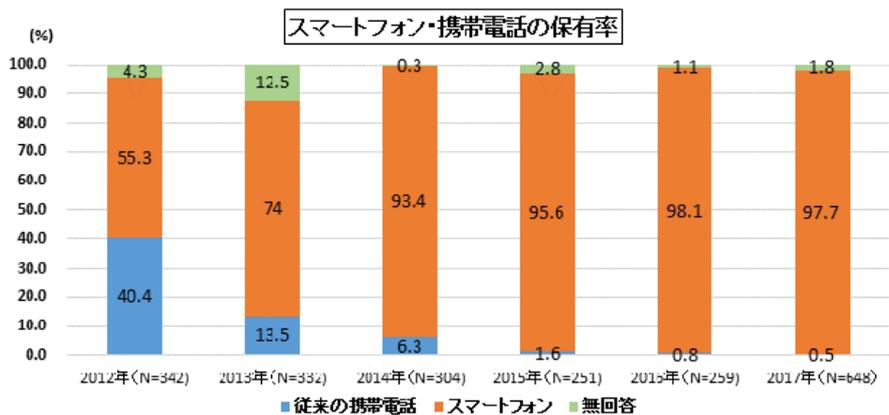
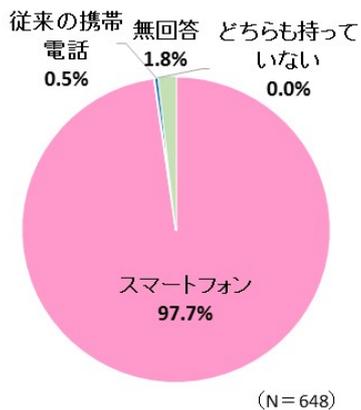


③(利用している人のみ) 奨学金の使い道



9. 携帯電話について

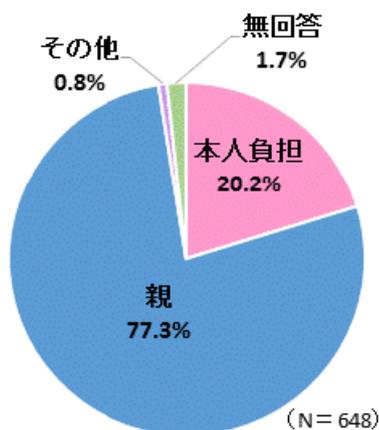
①持っている電話の種類



②主に利用しているアプリ



③電話料金の負担者



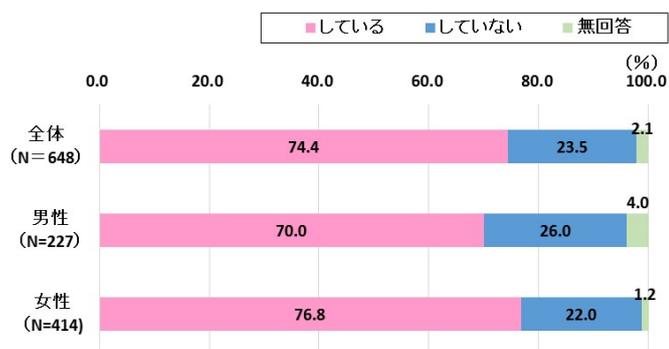
①持っている電話の種類は、97.7%がスマートフォンで、年々従来の携帯電話を保有している人は減っており、2017年には0.5%。

②主に利用しているアプリは「SNS」が最も多く8割以上、次いで「音楽」、「動画」がそれぞれ6割以上。「その他」では「買い物」、「スケジュール」などが挙がっていた。

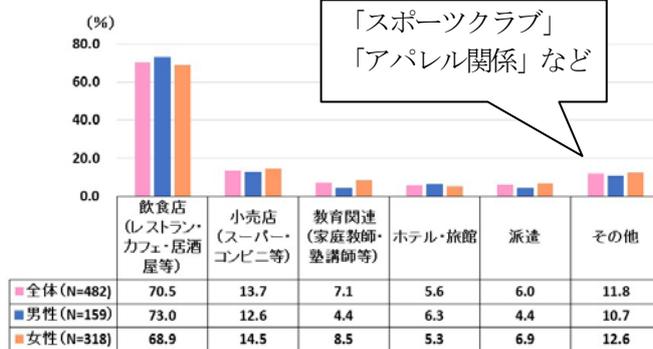
③電話料金の負担は「親」が支払っている人が多く、7割以上。本人が負担している人は2割程度。「その他」では、「親と本人（折半）」で負担している人もいた。

10. アルバイトについて

①アルバイトをしているか



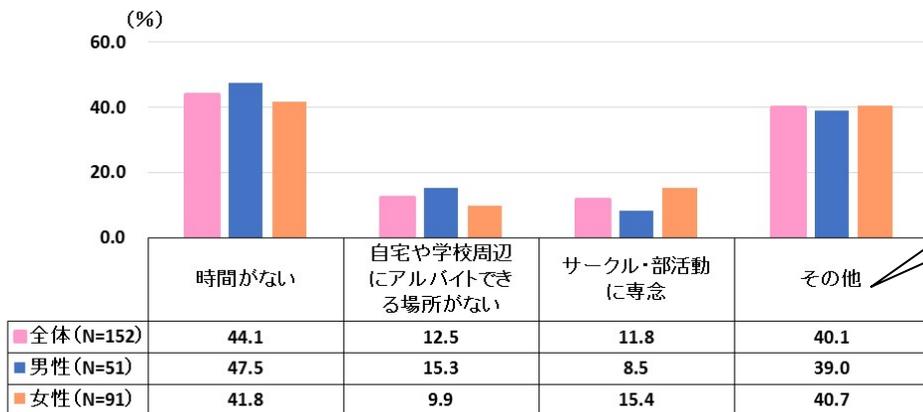
②(アルバイトをしている人のみ) アルバイトの内容 (複数回答)



全体平均 アルバイトの回数：3.5回/週 アルバイトの時間：15.1時間/週 アルバイト代：5.1万円/月

アルバイトを「している」人は7割以上で、そのうち「飲食店」で働いている人が最も多く7割以上を占めている。

③ (アルバイトをしていない人のみ) アルバイトをしていない理由 (複数回答)



「現在探し中」
「家の事情」
「勉学に専念」
「やる気がない」
「勇気がない」 など

アルバイトを「していない」人は2割程度で、そのうち4割以上の人アルバイトをする「時間がない」と回答。

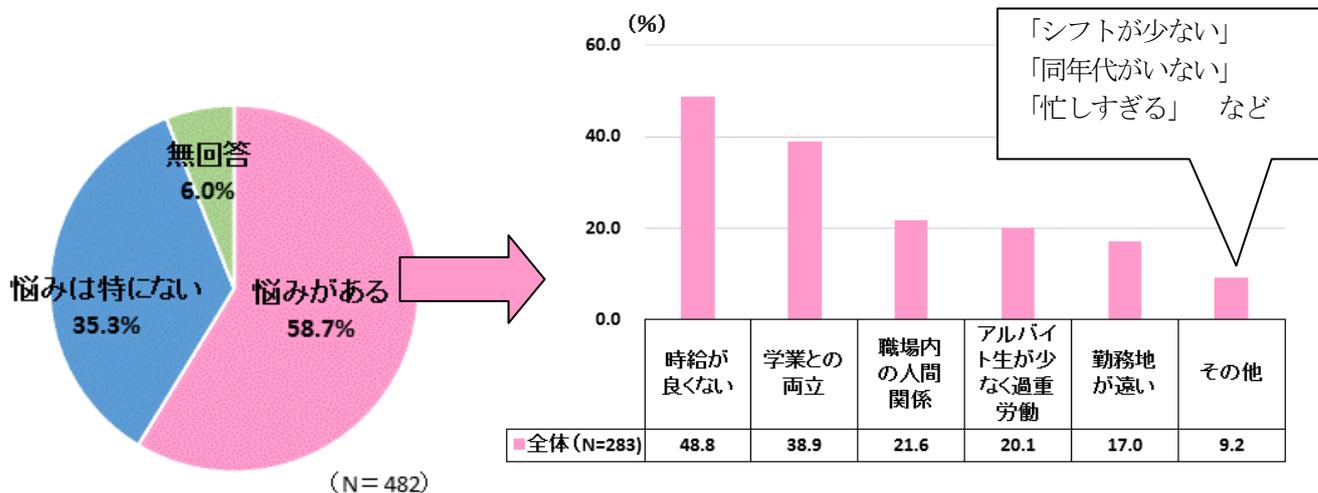
④ アルバイト代の使い道 (複数回答)



「家に入れる」
「買い物 (洋服等)」
「学費」
「部活・サークル費」
「家賃」 など

アルバイトの使い道としては、「食費」が最も多く6割以上。「貯金」が全体で48.3%を占め第2位となっており、男女共に多い項目。男性は女性よりも「飲み代」、女性は男性よりも「美容」、「旅行」の割合が高かった。

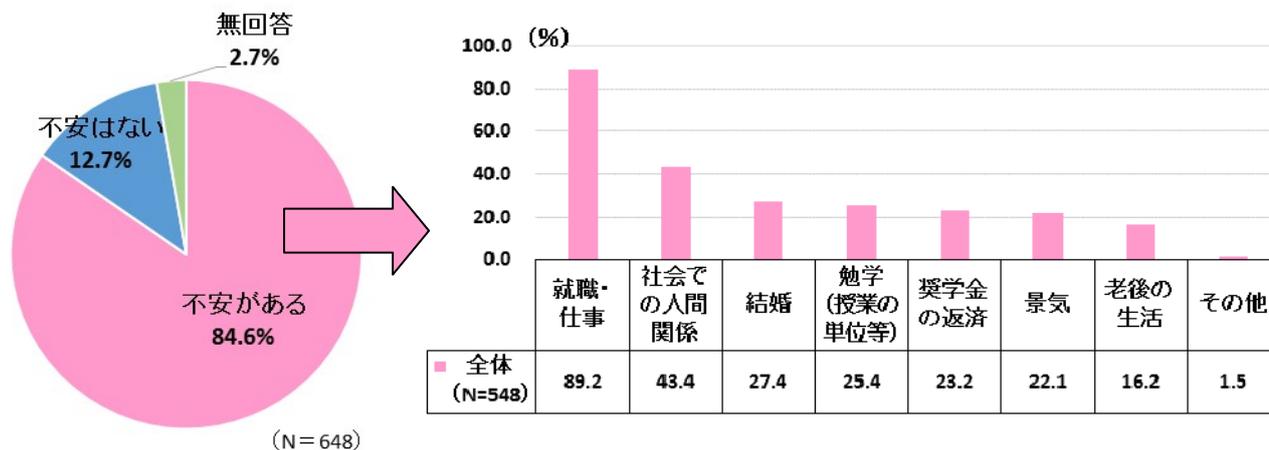
⑤ アルバイトにおける悩み (複数回答)



「シフトが少ない」
「同年代がいない」
「忙しすぎる」 など

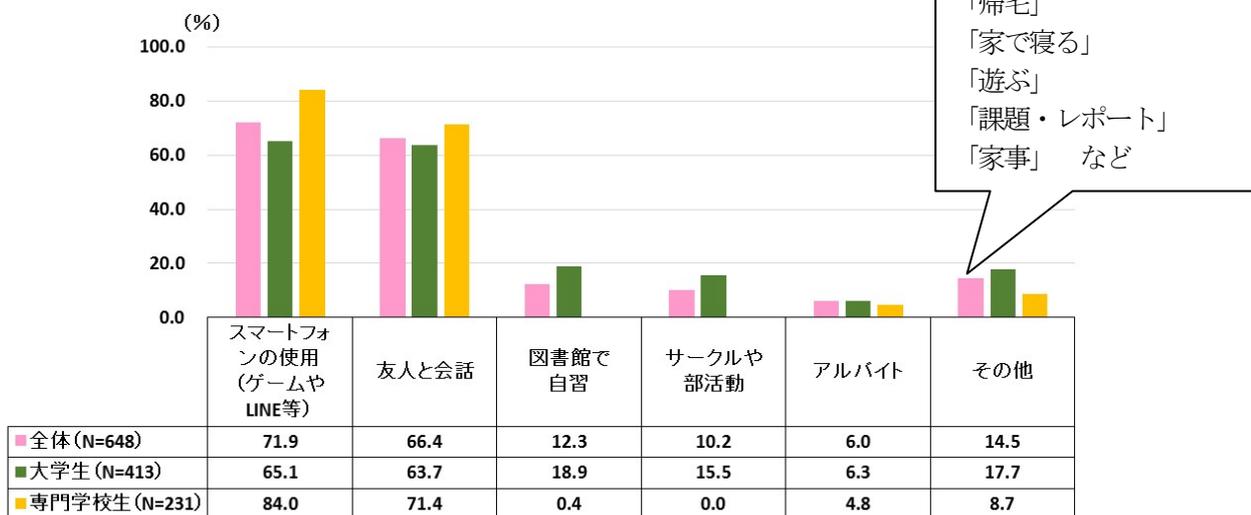
アルバイトにおける悩みがある人は58.7%と半数以上を占めている。
悩みの内容としては「時給が良くない」が最も多く5割近くを占めており、次いで「学業との両立」38.9%、「職場内の人間関係」21.6%と続いている。

11. 将来の不安（複数回答）



将来について「不安がある」人は8割以上、そのうち「就職・仕事」に関する悩みが最も多く9割近くを占める。

12. 授業と授業の合間に時間が空いている場合、していること（複数回答）



学生全体の回答では「スマートフォンの使用」が最も多く、7割以上を占めている。

【まとめ】

- ・学校へ進学する理由・・・専門知識・技術を身に付けるためや就きたい職業があるためなど学ぶ目的が明確で、自分の将来を見据えて進学している学生が多い。

親と子の認識の差がうかがえる結果として、

- ・進学先を決定する際に重視したこと・・・学生全体では「学校の授業内容」が最多。
親の回答と比較して、「経済的事情」や「親の希望」と回答している大学生の割合が高い。
- ・卒業する際に身に付けておきたいもの・・・学生全体では「礼儀作法」が最多。親の回答では「社交性」が最多。
- ・就職先の情報の集め方・・・「インターネット（企業HPやSNS）」が最多。
- ・スマートフォン保有率・・・「従来の携帯電話」が2012年の40.4%から年々減少し、2017年はわずか0.5%に。
- ・授業と授業の合間にすること・・・「スマートフォンの使用」が最多で7割以上。

→インターネットやスマートフォンは学生生活で必要不可欠なツール。

- ・アルバイト・・・アルバイト就労率は7割以上、「飲食店」で働く人が多い。
アルバイト代の使い道は「食費」が6割以上で最多、次いで「貯金」が全体で48%を占め、男女共に多い項目。